

あきらめず闘い続ける

NRU 国労せんだい

NO. 2489
2007年3月15日
発行責任者 太田 博二
編集責任者 武田 昌仙

アスベスト学習会を開催

地方本部のアスベスト対策委員会は2月25日、アスベスト問題学習会を開催した。講師には国労OBの白野三郎氏を迎えアスベスト災害認定の闘いと題した講演をいただいた。白野氏は「自身がアスベストに曝露してあり、労災認定の闘いの勝因を粘り強く闘い続ける」と報告した。

学習会では中島アスベスト対策委員長の司会で開会し、DSJ合唱団による歓迎の歌声が披露された後、地本太田委員長より歓迎の挨拶がされた。

講演要旨

を卒業し、川崎の発電所で臨時雇用員として採用された。

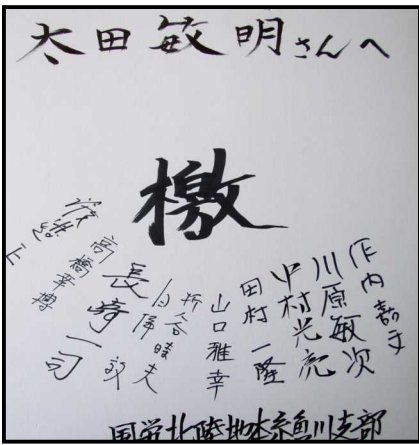
1995年に山形の高専で1987年、国鉄「分割・民営化」で不採用になり、清算



事業団に入れられた。この時期に「レールよ高らかにうたえ」という文芸社から出ている本を書いたが、こ

太田さん加入の激励を

宮城県支部 仙台電車区 分会の太田敏明さんの国労加入に対して各地から激励



の中には国鉄「分割・民営化」時の凄まじい国鉄当局の国労にたいする攻撃も書いている。「本当にこのよくなことがあったのか」と編集者から何度も聞かれた。その度に「事実です」と答えて来た。

アスベストの症状はとにかく「苦しい」の一言に尽きる。救急車で3回搬送された。

労働基準監督署に労災認定のため行ったが、国鉄時代の「曝露」のため清算事業団になるのではないかと、という受け付けない冷たい対応をされたため国労本部や岡田尚弁護士（横浜人材活用センター）事件担当弁護士に相談したが、清算事業団は岡田弁護士に会

おうともしなかった。そのうちにアスベスト問題が社会問題化し始め、神奈川労災職業病センターから、芝園診療所を紹介して頂き、2006年4月12日、業務災害認定を受けた。

日本政府はアスベストに対する医療対応が低く、日本にはアスベストのレントゲンをよめる医師が50人しかいないので、患者は医師を選ぶことが必要である。

自分もなぜ生き延びているとえば、トルマリン（電気石）のおかげであり、トルマリンがガンの発生を防ぐ役割をしており、日常生活の中で活用しているからである。

国労加入歓迎
太田敏明さん
共に闘いましょう！！
待ちに待った仲間の復帰です！太田敏明さんの決意と仙台電車区分会の運動に心から敬意を表します。私たちには一足早い春の訪れで、本当に嬉しく思います。福島地区43名の組合員も太田さんを守り、そして学びさらなる組織拡大に向け奮闘する決意です！！共に頑張りましょう！！
2007年3月7日
国労福島地区分会
執行委員長 星 修児

の言葉が寄せられています。ご紹介し、更なる激励の取組みをお願いします。

激励先

住所 〒984-0051 仙台市若林区新寺一丁目4番31号
FAX NTT022-299-7435 JR031-3991(こくろう会館3F)



曝露しても長く生きられることを証明したい。また自分も分会の委員長を経験しており、更なる国労運動の発展を希望する。
質問・意見 ロックウールの危険性について。会社は無害と言っている。先輩の死はアスベストではないかと思っ

講師解答

ロケフィルムにはアスベストが含まれているものもあり、安全とは言えない。アスベストのためには、死は死亡時の診断書があらは、闘える。国鉄時代の「曝露」は清算事業団が対応する。

地本の現状と取組み

仙台地本の現状と今後の取組みについて、佐藤勝アスベスト対策委員会事務局長が報告した。

地方本部は対策委員会を2カ月に1回のペースで開催している。(国労文化に掲載紹介されている)

郡山運輸区のアスベスト作業に伴う懲戒処分については今後も調査を進めていく。

東北工事事務所分會組合員の労災申請については分會と共に進めていく。

特殊健康診断の結果報告書」を地本集中する取組みを強める。

職場内のアスベスト存在の明確化と会社への対応の要請を



職場で行う。

質疑と討論

労災申請について近々行う。東北工事事務所分會)

郡山運輸区の処分については明らかでない不当処分である。郡山工場支部)

ベトナム産レジャーに使用されているガジェットが製品業者よりアスベストの係上交換要と言われたが対応は、仙台総合車両所支部)

仙台空港線交差通過一部整理

ワシントン議論継続

地方本部は2月23日「平成19年ダイヤ改正等について」整理し、また「仙台空港線直通列車ワシントン運転の実施について」は今後の見極めも含め「係員乗務員」を外す時には説明等をする事を前提に、議論継続のうえ交渉した経過について整理をした。ワシントン転に関しての組合主張は以下の通り。

安全対策の視点から今後もワシントン運転を求める。申13号での議論は継続となっており、今後も行つ。開業までにアクセラ鉄道側との緊急避難誘導訓練を実施

地本答弁

については、労安法が昨年9月に変わり、アスベストの含有率が1%から0.1%に強化されたため、その関係であると思われる。また「つした」場面での対応マニュアルの作成要求については検討したい。

アスベストにたいする関心が日増しに大きくなっており、被害の掘起し、被害の防止への対応が地本に求められている。引き続き闘いを強化する。

新型車両 新線路 ワシントン6両運転とこれも不安材料。アスベストと当社のモーターの映りの違い、721系車両の車内無線の固定は異常時対応で問題。対策を求める。

見極め期間で問題が発生した場合議論すること。また係員を外す際において会社の説明を求める。

業務部情報6-1より抜粋

業務部より

ワシントンに一定期間乗務させる車掌。係員は2ヶ月、6ヶ月と決められており、支社としてはそれ以降の「見極め」は必要なしとしている。引き続き、これまで同様問題点を求めていく。

またプレス(マスコミ)先行となっている山形からの直通運転(臨時運行)についても議論となる。

安全 安定輸送の視点から、それぞれの職場の問題点も含めて要求を集約してもらいたい。

次号予告 国労仙台総行動の特集を掲載予定です。お楽しみに!

郡工支部が教宣学校を開催

2月22日、郡工支部が教宣学校を開催するといつので地本から前任と二人で参加させて頂いた。

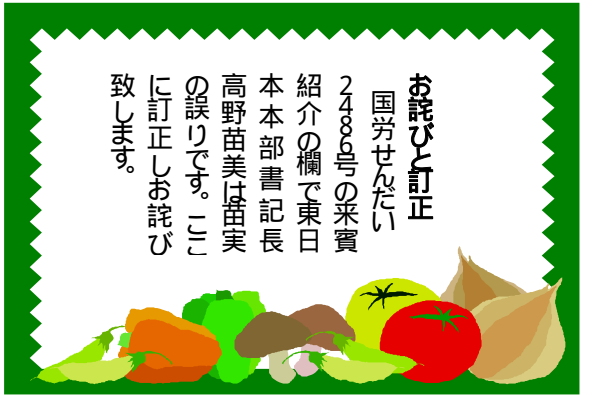
この取組みは昨年から行われ、今回で2回目だ。その内容。

開催にあたり、支部橋本書記長からは「昨年からはじめた取組みだが、継続す



直撃取材

お詫びと訂正 国労せんだい 2488号の採買紹介の欄で東日本本部書記長高野苗美は苗美の誤りです。ここに訂正しお詫び致します。



「学校」の具体的内容として、数台のPCを使用し、パーソナル編集長」といつ編集ソフトの取り扱い方の説明や訓練を行い、機関紙の発行に取り組むというものでした。

「学校」の具体的な内容として、数台のPCを使用し、パーソナル編集長」といつ編集ソフトの取り扱い方の説明や訓練を行い、機関紙の発行に取り組むというものでした。とはいえ、郡工支部では執行部全員が機関紙発行に取組み、既に一巡していると聞きました。地本教宣部が分からない事を指導されるなど、冷や汗をかく場面もあつたりして、中々興味深い取組みであつたと思つた。

何かと担当者任せになりがち。今後の運動の在り方について、石を投じるものではなかったでしょう。

お知らせ

国労会館建設資金返済業務の取り扱い変更について

国労会館建設資金返済業務は1999年度未償還期限以降、(財)国労会館仙台事業部で取り扱いを行ってきたところですが、このたび返済業務が一定の整理を見たこと等から、(財)国労会館仙台事業部で取り扱ってきた業務の残りについて、国労仙台地方本部で引き受けることになりました。

つきましては、今後の国労会館建設資金返済請求については下記に請求をしてください。

記

住所 〒984-0015 仙台市若林区新寺

名称 国鉄労働組合 仙台地方本部

担当係 岡崎

連絡先 TEL022-2937460 FAX022-2937435

請求方法

所定の請求書に必要事項を記載の上「国労会館建設資金受領之證」とあわせて提出してください。

